第２回　教育課程検証委員会会議録

平成２５年９月１７日

【事務局】　　第２回教育課程検証委員会を開会いたします。

本日は、教育課程検証のための意識調査の速報値の結果も参考にしていただきながら協議を進めていただけたらと思っております。また、第１回目の議事録を資料としてつけさせていただいております。既にホームページ上に公開をいたしました。前回の議事も参考にしていただきながら議論のほうを進めていただければと思っております。

では、委員長、よろしくお願いします。

【委員長】　　皆さん、こんにちは。大変ご多用の中、ご参集いただきましてご苦労さまです。では、時間も限られていますので早速進めていきたいと思います。よろしくお願いします。

では、まずここで傍聴人に入室していただきますので、事務局のほうはよろしくお願いします。

【事務局】　　本日、傍聴人の方、２名いらっしゃっておりますので、よろしくお願いします。

【委員長】　　それでは、提出されている資料について、事務局からの説明をお願いします。どうぞ。

【事務局】　それでは、資料の説明をさせていただきたいと思います。

まず、資料２をご覧いただきたいと思います。こちらの資料２でございますが、２３区の二学期制・土曜授業等の状況につきまして調査をさせていただきました。それをまとめたものでございます。

まず、二学期制の状況でございますが、２３区の中で全小中学校で実施をしている区が８区ございます。一部の小中学校で実施をしている区は千代田区と杉並区の２区でございます。実施をしていない区は１３区になります。

それから、土曜授業の状況でございますが、まず、基準回数を決めて全小中学校で実施をしている区が１１区、それから基準回数を「程度」ということで示して全小中学校で実施している区、これは各校で実施回数は異なりますが、これが８区。各学校の実施としている区が３区ございます。実施をしていない区は１区のみということでございました。

なお、実施回数は裏面のほうをご覧いただきたいと思います。土曜授業の実施回数につきましては裏面のとおりでございました。概ねどの区も月に１回程度の実施、年間で８回から１１回という区が非常に多くございました。ただ、品川区は月２回ということで実施をしております。また、下の枠になりますけれども、基準回数を「程度」として示しているところ､上側の枠は基準回数を決めている区でございますが､この下側の真ん中の枠は、港区が年間１７回から２２回程度、月２回までという示し方をしております。あとはご覧いただいたとおりでございます。

表に戻りまして、長期休業期間短縮の状況もあわせて調査いたしました。全小中学校で実施をしている区、５日間、それから１日短縮、それぞれございましたが、合計１０区が何がしか夏季休業期間の短縮を行っているというところでございました。また、いずれかの校種で全校実施している区、学校の状況に応じて実施している区ということでございました。実施していない区が９区ということで調査の結果が出ました。

それから、資料３でございます。こちらにつきましては、全国学力・学習状況調査の土曜日の過ごし方の質問紙調査の結果でございます。まず、表のところが児童の質問紙の結果、上が土曜日の午前中にどんな過ごし方をしているか、下が土曜日の午後にどんな過ごし方をしているかということでございます。それぞれ１番多いのは２番の習い事やスポーツ、地域の活動に参加しているという午前・午後ともに多いという結果が出てきました。２番目に多いのが、午前中は家で勉強や読書、午後は友達と遊ぶになっております。これは全国でも同じような状況でございます。

それから、裏面にまいりまして、中学校の質問紙の結果でございます。中学校は、土曜日の午前中について同じような結果が出ておりました。まず、１番多いのは、学校の部活動に参加をしているというのが午前中は圧倒的に多く、午後も同じです。それから、２番目に多いのは、家でテレビやビデオ・ＤＶＤを見たり、ゲームをする、これが午前午後も２番目に多いというような土曜日の過ごし方でございます。

次に、資料４でございますが､「土曜授業に関する検討チーム」中間まとめについてでございます。これにつきましては、今年の３月から文部科学省内で土曜授業に関する検討チームを立ち上げて、土曜授業の在り方について検討をするということで、今回中間まとめが出たところでございます。もう既に新聞の報道も出ているところでございます。

１枚めくっていただきまして､「土曜授業に関する検討チーム」中間まとめ【概要】と書いてございますけれども、簡単に申し上げますと、２の（２）のところの土曜授業の制度

設計という部分につきましては、以下のとおり、この枠囲みの中にあるように二つに分けて検討しております。一つが、全国一律で土曜授業を制度化するという場合と、もう一つが、設置者の判断で土曜授業を実施する場合ということであります。まだ中間まとめでございますが、中間まとめの段階では、全国一律に制度化をするというのはまだ検討をする必要があるということで、まずは各都道府県の設置者の判断によって土曜授業に取り組みやすいようにしていくという方向性で中間まとめの検討が行われているということでございます。

以上、資料４までご説明させていただきました。

【委員長】　　ただいまの説明について何か質問はございますか。よろしいですか。

それでは、続きまして、教育課程検証のための意識調査の結果の速報値について資料が出されておりますので、事務局より説明をお願いします。

【事務局】　　それでは、別紙５をご覧いただきたいと思います。別紙５、資料を差し換えさせていただいたこの１枚がございますが、まず、６月の末から７月半ばにかけて意識調査を実施をさせていただきました。　回収は、教員が１，９３６名、回収率は８０％、ＰＴＡの役員が１，５４０名、回収率が７９％、学校評議員が５６１名、回収率は６１％という結果になりました。

なお、この中で学校種、小学校、中学校でご回答いただけなかった分が、教員が２名、ＰＴＡの役員が１５名いらっしゃいました。それから、学校評議員につきましては、小中と兼務をしているという回答をいただいた方が２６名いらっしゃいました。ということを踏まえた形での意識調査の結果でございます。

１枚おめくりいただきまして、１ページ､「二学期制により一つの学期が長くなることで、学びの連続性につながっていると思いますか」をはじめとして、この１ページから３ページにつきましては、二学期制になってどんな成果があらわれているかというようなことも含めて質問をしたところでございます。この３ページともに共通した部分で申し上げますと、まず、全体に関しましては、「分からない」という回答が割合として高いというふうに読み取れます。また、「思う」という、二学期制を肯定するといいますか、成果が上がっているというような「思う」という回答は教員が高い。「思わない」という回答は保護者、それから学校評議員が高いというような傾向になっております。ただし、個々に見ていきますと、教員も小中学校の別でいきますと、「思う」と「思わない」が相反する傾向にあります。まず、小学校の「思う」が非常に高い割合を示していますが、中学校については「思

う」が非常に低い、「思わない」が非常に高い割合を示している、こういうようなところが大きな特徴となっているかと思います。

４ページをご覧いただきたいと思います。「あなたは、二学期制についてどう思いますか」という質問でございます。これは、先ほどご覧いただきました１ページから３ページの傾向をそのまま表している部分もあるように思っております。まず、左側の項目で、どちらかといえば二学期制の趣旨が実現されていると思うので、継続した方がよい、あるいは、積極的にどちらかといえばどんな形でも継続した方がよい、これが上二つです。その下、三つが、どちらかといえば、趣旨が実現されているが改善が必要だ、あるいは、趣旨が実現されていないので改善が必要だというご意見ということになります。

まず、継続をした方がよいという回答につきましては、教員は、この上二つ、全体が合計４２．５％、小学校につきましては５４．４％、中学校は１８．５％でございました。改善が必要だという部分につきましては、教員が全体が３８％、小学校は２６．８％、中学校は６０．２％でございました。この部分でも、全体では継続が４２％で多いんですが、ただ、小学校の先生方は継続で５４％、５割を超えていて、中学校の先生方は改善が６割を超えているという、先ほどと同じような現象が出て、結果が出ているということになります。

それから、保護者につきましては、継続が全体が１７．６％、小学校は２０％、中学校が１４．７％。改善が全体が６４．７％、小学校は６０．１％、中学校は７０．５％でございました。

それから、学校評議員は、継続が全体で２６．２％、小学校は２７．６％、中学校は２４．３％。改善が全体が５５．７％、小学校が５５．２％、中学校は５６．６％でございました。

なお、下の枠に二つ母数が出ております。教員の全体が１，９３６名、小学校１２９０名、中学校６４４名となっていますが、これを足しても全体の数にはなりません。合計しますと１，９３４名になります。残りの２名はといいますと、先ほど申し上げました小学校と中学校の別は無回答であった方の数ございます。

したがって、小学校にも中学校にも入れられませんので、全体の母数の中にはその２名を入れてあります。ということで１，９３６名が全体ということになります。同じようにして保護者につきましても、小学校８３５名、中学校６９０名、合計１，５２５名でございますが、小中の無記名の方が１５名いらっしゃいますので、全体は１，５４０名となります。逆に学校評議員の方は、小学校３７７名、中学校２１０名、合計５８７名でございますが、小中兼務をしているということで、その兼務をされている方は全体からその重なった部分

を引いておりますので、５６１名が全体の母数になります。すべての母数について、そのようにご覧になっていただければと思います。

次の５ページにつきましては、ご覧のとおり「継続をしたほうがよい」の主な理由ということで、こちらの方は、教員、保護者、学校評議員と続いております。

８ページは、「今後改善が必要だ」というご意見の中から、教員、保護者、学校評議員がそれぞれ複数回答で出ております。

それから、１１ページをご覧いただきたいと思います。１１ページは、学期の区切り方につきまして質問をしたところ、どの、教員、保護者、学校評議員も同一の感じで、区切り方は統一ということが非常に多かったと、こういう結果です。

１２ページ、戸惑いを感じるか、学校の先生方、特に小学校の先生方は戸惑いを感じるというふうにお考えのようでございます。

それから、１３ページでございます。１３ページは、土曜授業についての質問になります。１３ページ、１４ページ、１５ページまで、この３問について土曜授業の成果について質問しているところであります。傾向といたしましては、土曜授業に対して、先生方と保護者、学校評議員との意識の違いというのがここで明白になっているのは、保護者、学校評議員は非常に土曜授業に対して肯定的な意見が高い割合で出ております。それに対して先生方は、否定的な意見も非常に多い、あるいは「分からない」の回答も多くございました。

それから、１６ページでございますが、今後も土曜日に授業を実施した方がよいかという質問に対しては、年に８回の実施、これが先生方、それから保護者が１番高いというところでございます。学校評議員は毎月２回実施というのが１番高いというふうなことで、保護者は毎月２回が２番目、教員のほうは「分からない」が２番目、このような結果でございました。

１７ページは、「土曜授業を実施したほうがよい」の立場、それから、２０ページが「実施しないほうがよい」という立場での複数回答の結果でございます。

それから、２３ページでございますが、夏季休業期間についての質問、これは、教員のみに質問をいたしました。この夏季休業の短縮につきましては、保護者、学校評議員については土曜授業の質問の中で読み取れるということで先生方のみに質問をさせていただきました。その結果、夏季休業の短縮はしない方がよいというのが多数であるというところでございます。残りは、２４、２５ページはその理由ということで出ております。

アンケートの意識調査については以上でございます。

【委員長】　　ありがとうございました。

ただいま速報値についての説明をいただきました。それでは、今の説明についての質問が何かあればお願いします。

よろしいですか。あらかじめご覧いただいていますので。

それでは、引き続いて、きょうの主題である二学期制の成果と課題についての議事を進めていきたいと思います。ただいま説明があった速報値に基づきながら、それぞれのお立場からこれをどう受けとめるか、あるいはどう考えるか等、感想も含めてそれぞれお考えを出していただきたいと思います。

なお、時間は限られておりますし、人数は割と多いので、それぞれ十分な時間をとることはちょっと難しいと思いますので、可能な限り要点を先にお話しいただいて若干の説明をしていただくというような形でお願いできればと思います。今日はできるだけ全員の皆さんにご発言をいただきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

それでは、特に順番は決めません。どなたからでも結構ですのでご発言をお願いします。はい、どうぞ。

【委員】　　私は中学校教員なんですが、小学校と中学校で明らかに二学期制の捉え方が違うというのは、中学校は結果的に進路指導で上の学校へ進学するということが入っていて、どうしてもいわゆる高校とか上級学校がどういう感じで中学校の成績をつかみたいということがすごくあるなと思うんですね。だからここで例えば練馬区の中学校がこうしたいというふうになっても、例えば高校、いわゆる上級学校の形態が今までどおりだと、私たちの事務処理、成績を出さなきゃいけないとか、そういう資料をつくるとかいうことになって、やはりその二学期制の意味はどうなのかな、そういうところはどうしても中学校に出てきてしまうと思います。皆さんすごくこう、中学校の立場でどう思われますかっていうと、それがあるから、中学校だけの意見というふうに言っても何か言えるかなというところがあります。

以上です。

【委員長】　　他にどうですか。どうぞ遠慮なく、それぞれお考えいただいていると思いますので率直に出していただいて、今日はとにかく、ブレーンストーミングじゃありませんけれども、皆さんそれぞれから意見を出していただくという機会ですので、遠慮なく出していただければと思いますが、どうですか。はい、お願いします。

【委員】　　先ほど中学校の先生からもお話があったように、予想どおりかなと思われるような結果だと思うのですね。小学校は、それほど、ある意味二学期制になったからといって不便さは感じないところがあって、逆に成績処理の部分では１回減っているわけですから、その分ちょっと余裕ができるので子供と向き合う時間が増えてくるという感覚は多分もっているような気がします。中学校の方は、今言ったように高校への資料づくりのために、結局二学期制でやってももう一個資料をつくらなければいけないということか多分起きていると。さらに部活の絡みや、他の区とかの絡みがあると、こっちはこうだけどこっちはこう、中間の定期考査の時期がずれるのをうまく組めないとか、様々な不便さがあると思うのですけれども。お互いの立場がちょっと違うので、何ともこれを区全部で統一して小学校も中学校もこっちにしましょうと持ってくるのはどうも難しいのかな、最終的な結論はとても難しいかなというのは感じています。

保護者に関して、また評議員の方に関しては、正直自分の経験上から考えているのかなという気がするんですね。やっぱり三学期制で育ってこられていますので、三学期制の方が正直わかりやすい、保護者にとってみれば長期休業の前に通知表をもらってきた方がわかりやすいという結果が素直に出ているんじゃないかなとは思いました。

【委員長】　　ありがとうございました。

いかがですか。今、中学校、小学校それぞれの立場からのご意見がありましたけれども、先生方から出ていましたけれども、ＰＴＡの方からはいかがでしょう、小中の立場で。では、お願いします。

【委員】　　小学校のＰＴＡとしてお話しさせていただきたいと思います。やっぱり保護者向けのアンケート結果を見ますと、ほとんど先ほどおっしゃったように「思わない」と「分からない」が過半数以上という部分で、やっぱりその二学期制の趣旨というのがなかなか浸透されてないんじゃないかなとは思います。「思わない」の中にも、実はよくわからないから「思わない」と回答している部分もなきにしもあらずかなと思っていますので、ここの保護者向けに、もうちょっと二学期制を継続するならば、どういう趣旨で、そしてその結果こういうことがメリットがあったよということをオーソライズできる仕組みが必要なんじゃないかなと感じています。

以上です。

【委員長】　　ありがとうございます。

何かありますか。

【委員】　　私も、今、おっしゃったように同じような考えで、実際二学期制になって、明らかに物質的にはその通知表を持って帰ってくる子供が、回数が減ったというのはわかるんですけれども、実際その子供自身がその二学期制であってどんなメリットを受けているのとか、もしくはデメリットを受けているのかということが全く保護者はよく分からないというのが正直なところで、分からないから思わないという考え方っていうのは結構あるんじゃないかなと思いますので。ただ、先生方も二学期制になったメリットというのは分かっていらっしゃるとは思うんですけれども、先生たちももしかしたら私たちにここがよくなりましたって、こういうふうに変わってこういうふうによくなりましたとかというのは、すごくお話ししにくいところもあるんじゃないかとかいろいろ思うところがあって、何て言うんでしょう、想像の上でしか回答ができていないんじゃないかという気はしております。

【委員長】　　ありがとうございました。

中学校はいかがですか。

【委員】　　中学校で、保護者としては、二学期制であると３年生は特に成績の方で先生方が二度手間になるのではないかと考えます。子供たちも、一応３年生だけは評価は出てくるのですけれども、通知表としては出てこないで、夏休みの勉強に取り組む部分で少し気合いが入らないのではないかなと感じています。

【委員長】　いかがですか。

【委員】　　７月に中Ｐ連でも情報交換会というのを行いまして、各校の役員は皆さんどう思っているかということで、二学期制、三学期制のことについても皆さんからご意見が出たのですが、最も保護者の方が関心があるのは、内申のために夏休みに勉強をしたいのだけれども、自分の現在の状況が分からないので夏休みにどういう対応をしてよいか分からないというところで、やはり夏休み前に、特に中学３年生に関しては評定を出してほしいという意見がほとんどでした。先生は、このお話では、その前に三者面談をしていると、そこでここがだめだからもっと頑張りなさいよという評価をしているし、そこでちゃんと話し合えばそこの部分を補えるんじゃないかというお話でしたが、それは本当にごもっともなんですけれども、保護者と生徒の立場からすると、やはり数字というのが一番威力がありまして、言葉でここをと言われてもそれがやはり子供には強く行かないというか、本当に正しいことをおっしゃっているのですが、それがなかなか響かないのが、やはり数字だということで子供も自分のこととして初めて捉えられるという、その数字の力がやはり

あるので、保護者としては、仮であってもいいので、そこの部分がやはり二学期制という部分では一番気になるところだとおっしゃっていました。

　でも、私は、やはり欧米は９月から新学期が始まりますけれども、日本は４月から新学期が始まっているわけで、その中で二学期制という欧米のやり方をまねしても、どうしても９月、夏休みが終わって９月になりますと、校長も先生も保護者も新学期という言葉を使いたいその風土というか文化の中で育っていて、それが１０月中にというこの日本人にとってけじめのない数字で始まるということに対する違和感は常に私たちの心の中にあると思うんですね。三学期制といっても夏休みを入れれば四つに分けているわけで、その春夏秋冬を大事にする日本人の文化と、何かすごくその二学期制というものがちょっと合わない部分も常に感じて、言葉は、本心だけど、言いたいけど言わないとか、そのけじめをすごくする、きちんとして、日本人だからこそ何かそこにちょっと気持ちの上での違和感が常にあるように感じます。

【委員長】　　ありがとうございました。

　さあ、いろいろと意見が出始めましたが、いかがでしょうか。どうぞ。

【委員】　　成果と課題の観点からいうと、成果は、やはりゆとり感が生まれたのではないかなと、多忙ではあるけれどもゆとり感がある。とりわけ学校行事の区切り方が変わりました。夏休みぎりぎりまで小学校は移動教室を組むことが可能になりました。それから、１２月の末ぐらいまで学芸会だとか展覧会といった行事を考えることも可能になり、行事の配分が変わったことによって授業の流れも変わって、それは非常に大きかったなと私は思います。

　ただ、先ほどおっしゃったように、元々なんですけれども、この「学びの連続性」という趣旨がどうも徹底できなかった。とりわけ夏休みという長期の休業日を生かすということが最初にあったはずなんですね。でも、先ほどおっしゃったように、やはり校長は、夏休みが終わると何となく新学期の空気になっていって、これまでとは違った自分をなんて平気で言うんですよね。その辺からいくと、この長期休業日をやはりどうしても生かす組み立てが教育課程の中でも組めなかったという大きな欠点を残した。そういったことがこの意識調査の中にもろに表れているなということを改めて感じておりまして、さてさてこれからここをどうしていくのかということに関しては、非常に今悩んでいます。ただし、私は成果としての意味は十分に理解しているので、この部分がないがしろになってほしくないなという思いも大変強くもっています。

以上です。

【委員長】　　ありがとうございました。

どうぞ。

【委員】　　今、学校行事の組み立てが三学期制に比べると少し容易になったというお話がありました。確かにそういうところもあるなというところは感じ取れるんですけれども、中学校全体の年間の流れとして、やはり３年生中心の学校行事にならざるを得ないんですね。要するに上級学校進学という一つの大きい行事があるので、結局その上級学校から求められる、それから子供たちの成績を提出しなければいけないということを大前提に考えると、３年生に関しては、やはり三学期制と同じような時期に成績を出していかなければいけない。そうすると、学校行事を組む上でも、ポジション的には例えば大きい行事、運動会であるとか修学旅行であるとか、それから文化的行事であるとか、そういうものも二学期制と三学期制とそれほど大きなポジションのずれはなかったように思うんですね。先ほど保護者の方からもありましたように、結局夏休み前に特に３年生を中心とした学習の成果というものを生徒や保護者に見せることで夏休みの努力目標というものを提示できるかどうかというのは、ものすごく大きな課題であったと思います。この課題については、学校ごとにそれぞれ校長判断でさまざまな形で成績を示しているところでもありますが、やはり二学期制の趣旨を生かして、成績を出すといっても、示すといっても、通知表という形では当然出してないわけで、そのあたりが三者面談等をやったとしても消化不良の部分は、生徒、保護者のほうに伝わっていくのではないかなという気がしておりました。

【委員長】　　ありがとうございました。

それぞれの今の状況の中、いろいろ悩み等もおありだろうと思うんです。そのあたりも、こちらはデータ的に出ているだけですから、実質的な、思い、考えとして出していただけると有意義かなと思います。続けてどうぞ。いかがですか。

【委員】　　二学期制を導入されるときに、一つ小学校の中で話題になったことは、３学期で完全週５日制になったとき、従来の３学期という期間はわずか５０日あるかないかぐらい、その中で各教科にきちんとより適切な評価・評定をするというときに、ほかの１学期、２学期に比べて３学期はあまりにも授業日数が少ないということで、そこをもう少ししっかりと３学期というか、その後半の部分の評価・評定を示すにはどうするかということで変化が必要になって２学期に分けて運営していたということがあります。その中では、従来の３学期というところが、少し１１月、１２月もその評価の期間に含まれるというこ

とで、じっくりと腰を据えて担任が学習指導をしていく中で、短期間で、高学年になると、特に６年生はわずかな単元数で同じような内容の評価をしなくてはいけないということになります。そこはやはり改善されたと思っていました。ただ、後半の部分はそういう形でとても成果が表れているんですけれども、その前半の夏季休業が４０日間ほどあってというところで、どうしても、先ほどお話もありましたけれども、１学期はそれまでと同じ期間で、その１学期の後半と言われる部分がちょっと日数的には充実したなと。そこで秋休みというようなものもなく、わずか数日で１学期と２学期の間で気持ちを切り替えるというところで、小学生のレベルでそういったところをきちんと整理をして、また後半に向けての目標をもつということがどれぐらい可能かという点では、後半部分についてはとてもゆとりをもってしっかりと評価できたということでは成果があったと思いますけれども、前半の長期休業中、夏休みを含めたところということでは、やはりもち方については少し難しさも感じないではないというところが正直思いました。

小学校、中学校の結果で、児童生徒と向き合う時間的ゆとりが生まれているかということで、小学校と中学校では全くこの捉え方が反対になっているというのは、恐らく教科担任制と学級担任制という決定的なこのもち方の違いもあるので、お子さんをどう扱っていくか、その体制の問題もあるので、恐らくこういう結果になったと思います。

以上です。

【委員長】　　ありがとうございます。

全く同じ意見、考えでも構いません。

【委員】　　「学びの連続性」ということで先ほどもお話がありましたように、二学期制になったときにその夏休みをどうするかということで、やはり生徒は自己評価するなり、または教員がある程度の評価をして、その課題を見付けさせないといけないというところで、やはり評価に近い作業というものをやってきて、そして何とかしようじゃないかとやってきたと思います。だからここでアンケートを見ると、なかなかその成果としては、この夏休みでの学びの連続は難しかったのかなと思いました。

また、先ほどから３年生の評価について話がありますけれども、かつては１学期、夏休み前で評価が出て、それでは２学期頑張って１２月に飛躍しようと決意していたものが、やはり１０月に評価を出して、これが飛躍的に後の１か月後に出るかというと、そんなことはあまりないということもあって、かといって今は７月にある程度出していくと、学びの連続とこの長い評価というのを短いスパンで出していってしまって、なかなか伸びが見

えづらいということも今起きているのかなと。それがこの保護者も、そして教員の方の区切りがつきづらいというところの結果になっているのかなと感じました。

【委員長】　　ありがとうございます。

改めてこうしてお話を聞くと、それぞれの角度からいろいろなお話が出ていい検討材料になると思うのですけれども。どうぞ遠慮なく出してください。まだご発言のない先生、積極的によろしくお願いします。いかがですか。どうぞ。

【委員】　　二学期制導入のときはそんなになかったと思いますけれども、さっき言葉に出ていた「学びの連続性」に関しては、夏休みは仕方がない部分もあるでしょうけれども、中学でいうと、定期考査が少なくなっている部分では、授業で切られるところが少なくなって、定期考査のほうのスパンが長い分だけその分こうしっかり勉強が続いていくのというイメージをもっていたのですけれども、それが、それはあんまりここに反映されてないのかなと思います。

小学校ではむしろそういうものがないので、２学期につながっていく学びの連続ということに関しては、教員はあまり意識してないのかと思ったら、意外とこの結果から見るとそういうふうに意識しているということで、違った角度から見られているのかということを感じました。

保護者、評議員については、それぞれ連続性とか、二学期制の趣旨などについては、ほとんど思わないという回答で、その辺はちょっと残念というか、そういうところをもう少し何とかできないかと感じました。

【委員長】　　ありがとうございました。

続けてどうでしょうか。

ちょっと私の方から委員にお伺いしたいんですが、小中一貫教育校ということで、今、小学校は、中学校はと出てますけれども、小中一貫教育校という視点から何かお考えというか、ご意見なりもしあればお出しいただければ。どちらの立場でももちろん構いませんから、それは。

【委員】　　やっぱり小中一貫教育校でも９年生、卒業後の進路というのを考えていかなければいけない部分で、今ほかの委員の先生から出ていたことですね、やっぱり進路を考えたときに、今までの三学期制に合わせたような見方も例えば高等学校への成績の部分とか、あるいは子供の意識の中でも、さあ夏休みで成績を見て頑張ろうだとか、あと先ほどもありましたが、評価スパンが１０月からで短いというようなことは、小中一貫教育校の

中でも、教員の中でも、生徒あるいは保護者の中からも伝わってますので。あと小学校籍の先生が今まであまりそういうことをご存じなかったのが分かるようになって、例えば行事を組むときに９年生が忙しい時期には行事を組むのをやめようというようなことでお互いに計画を考えるときには配慮したり、答えにはちょっとなりませんが。

【委員長】　　ありがとうございました。

いかがでしょうか。あとまだご発言をいただいてない先生方、委員の皆さん、よろしければご発言いただければと思いますけれども。お願いします。

【委員】　　中学校の方は、先生方がおっしゃったように最後の高校進路の上級学校進学ということが一番の行事の大きな流れになっていて、そうすると夏休み中に高校、上級学校を見てきなさいという宿題、課題を出すんですね。それに行くと、高校側の先生が成績を見せてほしいと言うんですが、生徒たちが持っている成績は２年の成績なんですね。彼らは、もっと頑張ったのでもっと絶対いいはずですと一生懸命保護者の方も生徒もアピールするんですが、高校側は、やはり何かを持ってきなさいということで、高校の方からお電話があって、何かありませんかというようなお話がありまして、本校も、学習の成果というのを書いてあるのですけれども、文章で書いてあったりするので、それは数字でもなく、なかなかそれが認められないという部分があって、保護者の方も子供たちも何か欲しいというのはいつも言われていますけれども、中学の教員が二学期制になってゆとりがないというのは、やはり３年生の担任になると１０月に成績を出さなければいけないし、さらに１２月にも成績を出さなければいけないといって、そこにまた行事があって、通知表も出してということで、２学期というか９月から１１月、１２月、教員は事務的な作業がすごく多いんですね。そういうのを見ていくと、全然やはりゆとりが余計に厳しくなってしまったのかなという部分があって、ゆとりがないというような回答が出ているのではないかと考えます。

【委員長】　　ありがとうございます。

もうあと何人かの方だけになったので、順番にちょっとお願いしたいと思います。いかがですか。

【委員】　　小学校が二学期制になって、長期休業の前の話ですとか、１２月の終わりですとか７月の終わりにも研究授業というものを組めると先ほどありましたけれども、行事の組み方がかなり変わったことによって余裕が生まれているのではないかなというふうには思っていますが、本校の場合、夏季休業日前にやはり面談の機会をつくって、４年生以

上は基本実施する、それから、それに基づいて影響するのは子供たちだなと思うんですけれども、夏季休業日に頑張ったその成果が９月、それから１０月の前半、１学期の後半にどれだけ反映されるのか､頑張ったことというのを実感して子供たちがやってよかったと、そんなふうに感じてくれるかで、そういうのも「学びの連続性」というのになるかなと思いますけれども、そこら辺はやはりまだ十分にはできなかったのかなという気がしていますね。

【委員長】　　ありがとうございます。

いかがですか。

【委員】　　よろしくお願いします。自分は三学期制でも教えたこともありますし、二学期制でも教えたことがありますけれども、やはり二学期制になったことで成績表の処理だとかということは若干のゆとりがあると思います。あとは、教務として、例えてですけれども、夏休みの直前まで授業をしっかり組めるというのは、授業時間確保としてはいいと小学校としては感じました。ただ、この資料を見て、中学校では随分差があるのには大変びっくりしてしまって、本校では２小学校と１中学校の３校で小中一貫教育の実践校を今行っているので、もしここで何かが変わっていって、中学校では三学期制、小学校では二学期制となったときに、小中一貫教育実践校としてどういうふうな進め方になるかがちょっと気になったところでした。

【委員長】　　ありがとうございました。

あとご発言いただいてない方は。

【委員】　　私は中学校の側でこんなに小学校と差が大きくあることにびっくりした次第です。校長の立場で考えると、授業時数の確保とかいろいろ言われる中で、二学期制になってこの部分は随分改善できたのではないか。これをまた三学期制に戻すとテストの回数が増えたりとかいろいろな面で授業時数の確保で大変で、多分先生たちはやっぱりもっと大変になったと思うのではないのかと思いますけれども、工夫すべき点はたくさんあるのではないかと。先ほどから出ている評価のことも、うちは当然３年生は４回出しているのですけれども、夏休み前に出し、それから当然前期、後期を出し、１２月のときにも出し、そしていわゆる内申点、それも出し、それから３月にも出すと。それは３年生だけのことで、１・２年生については出してないので、４回出して大変なのは３年だけなので、これを三学期制に戻したら、３学期の部分の評価が非常に期間が短いので、多分自主授業か何かで週に何回かしか授業がないので、当然その中で評価するのは非常に大変で、またその

新たな課題は出てくると思うので。それから、先ほど委員もおっしゃったように、「学びの連続性」という部分については全く意識できてないと思います。その点は、二学期制にするのであれば、今後考えていかないと成果が得られないと思います。

以上です。

【委員長】　　ありがとうございました。

一通りお話をいただきましたけれども、あと何かございますか。

【委員】　　私は行政マンでちょっと現場が分からないので、どっちがどうなのか、なかなかコメントはできない立場でないと思います。ただ、うちの子供が小学生でずっと夏休みの生活、過ごし方を見ていると、確かにやってないような、ぐうたら過ごしているような感じは実感としてあります。

以上です。

【委員長】　　ありがとうございました。

【委員】　　それぞれ二学期制、三学期制、メリット・デメリットがあるところで、それぞれのよさというものも見て、そうしたものをうまく誘導できたらいいと思いながらこれを見ました。保護者、また評議員、また教員の皆さん共通しているのは、やはり区として学期制を統一してほしいと、小学校、中学校を分けないで一緒に同じような学期のほうがよいという結果を見ましたものですから、うまくそうしたところでそれぞれのよさを生かせたらいいとアンケートから思いました。

以上です。

【委員長】　　ありがとうございます。

無理やりご指名して申しわけなかったんですけれども、一通り今ご意見を頂戴しました。まだ若干時間がありますので、皆さんのお話を伺った上で、あるいはもう少しつけ加えたいとかございましたら、挙手をいただいてご発言いただけたらと思いますが、いかがでしょうか。

「学びの連続性」のことや評価のことが出ましたけれども、子供と向き合う時間ということの点ではいかがでしょうかね。アンケートでは、できたというところもあれば、できてないという、思わないというような結果も出ているようですけれども。

【委員】　　子供と向き合うという視点からも関連があったと思うのですけれども、中学校の場合は、中学校だけじゃないと思うのですけれども、教育課題の大きい視点の一つに、学習指導要領が変わったことによる授業時数の確保というのは非常に大きい課題ですね。

この二学期制の今後の方向性にもやはり授業時数の確保、授業時数をどう確保していくのか、どうやって時間をつくっていくのかということについてはものすごく今後の大きいポイントだと思います。それと、要するに定期考査であるとか、それから成績処理の回数が少なくなることで、時間をどういう形で中学校側は使っているかというと、要するに授業をすることで子供たちと向き合うという視点から考えたらそういうことになると思うのです。あとは、部活動を比較的タッチする時間が多いと思いますので。ですから、どちらかというと中学校の場合は、放課後子供たちと一人ひとりと向き合っているというよりも、授業をしながら、それから部活動をしながら、それから生徒会活動をしながらというところに関連してくるのかなと思います。いわゆる授業時数確保ということから考えれば、二学期制のメリットはあったのかと思いますけれども、やはりデメリットの部分も中学校３年生を中心とした成績処理の関係で今様々に意見が出ておりましたけれども、そういう課題というのは、今後やはり検討をしていかなければいけない部分なのかとは思います。

【委員長】　　ありがとうございました。

　どうぞ。

【委員】　　今、子供と向き合うみたいなその感覚も恐らくここにいらっしゃる方はみんな違うのではないですか。教員の中には、教育課程から、時間外の中で子供たちと共に何かをやる、あるいは個別に何かをするというイメージが子供と向き合うと捉えている先生が多いですよね。今おっしゃったように、ああいうふうに指導されている中で、そういうことじゃなくて、ある程度授業時数を確保して子供としっかり学習をするというその向き合い方のイメージがしっかりつくられてない。今ほとんどの教員たちは、放課後の多忙感を訴えて、なおかつこれでまた二学期制から三学期制に戻れば放課後の事務量が増えてくるだろう。それはさらに子供たちと向き合う時間が減ってくる、こういう感覚なのです。ですから、単純に子供と向き合うという意味をもう少ししっかりとした捉え方じゃないと違ってくるだろうと思います。私も実は一番心配しているのは授業時数の確保なんですね。三学期制にまた戻っていったときに、ほんとうに今並みにとれてくるのか。両方入ってきたときに、今度またこれとセットになるだろうと思われる土曜授業だとか夏季休業日の短縮だとかこういったものが出てくる。それが今度また違った意味の事務量を増やすということになってくると果たしてどうなのか、こういう根源的な部分もあるのではないか、そこなんですね。それがひいては子供たちの教育にまで影響はしないのか。その辺もやっぱりそれぞれ捉えているものをしっかりとむき出しにして、実際どっちの方向へ行ったらい

いのかというのをやっていかないと、本当のやっぱり協議になっていかないという気がしています。

【委員長】　　ありがとうございました。

　他にいかがでしょうか。どういう角度からでも結構ですよ、さらに付け加えたいことがあれば出していただけたらと思いますが。

　よろしいですか。では、もしあれば後で終わりの段階でまた出していただくということで、とりあえず先に進めたいと思います。この二学期制については、次回引き続き今度は方向性ということでまた議論を深めていくことになると思いますので、今日皆さんからいただいたことを基に、どうあればまたよりよい方向性が模索できるかという辺りのところをつなげていけたらと思いますので、よろしくお願いします。

　それでは、議事（２）のほうの土曜授業の成果と課題についてご意見を伺いたいと思います。併せて夏季休業日の短縮についても何かご意見がありましたらお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

　これは冒頭説明がありましたように、教師側と保護者側ではかなり数値的には差があるようですけれどもね。そこら辺のところ、データだけではなくて、皆さんのその思いとか考えをここでお出しいただけると参考になるかと思いますので、遠慮なくどうぞ出してください。では、お願いします。

【委員】　　１３ページの資料を見させていただいてまず思うことは、学校の教員と、それから保護者、学校評議員の方々の思いが異なっているということの現れなんですけれども、実施しなければいけない授業時数が明らかに増えたわけです。その視点から考えていくと、学校の現場の人間は、土曜日に授業をすることで明らかに授業時数が確保されたという認識はあるだろうし、現実それはそうだと思います。ただ、この設問の内容は、「児童・生徒が学習内容を理解するための授業時数」と表記してあるので、現場の教員にしてみれば、例えばその授業内容を子供たちに理解させるのは授業時数の確保ではなくて授業内容の工夫なんだろう、授業の質なんだろうと捉えている部分も私はあるように思います。ですから、この設問の捉え方が若干学校現場の人間と保護者の方々、評議員の方々とはちょっと違ってきている気がします。それでこの表が出てきている気がしてならないです。

【委員長】　　ありがとうございました。

　さあ、いかがでしょうか。授業時間の確保、それから子供と向き合う時間的ゆとりの確保、それから行事に参加したりする機会や人が増える、地域の人ですね、幾つかの角度か

らデータが出ているようですけれども、それぞれご覧いただいてお感じになること、お考えのあること、出していただけると。

【委員】　１３ページや１４ページのほうで、練馬区の場合には夏休みの短縮をやめて、その夏休み短縮期間中の２５時間分をどうするかということで、授業時数の確保という視点から年間の８回で土曜授業を行って、３時間やっても４時間やってもそれは学校の必要に応じてということでやっているので、教員が恐らく期待をしたというか考えたのは、恐らく授業時間あるいは子供と向き合う時間的なゆとりというのは、１週間の授業の、１週間の時間割でいくと、例えば小学校の場合では、中学校は多分ちょっと違うと思うのですけれども、低学年の２年生が毎日５時間、そういったところの時間数が、例えば１日でも４時間授業になるとか、あるいは、３年生は、１０年、２０年前に比べると６時間の授業が週に何日かある、そういうところはやっぱり週５時間、１日５時間の日が少し増えた、そういうことがあって初めて子供を放課後に少し授業で理解し切れない部分があったら教えてあげるとか、そういった意味の時間がとれれば時間的なゆとりは確保できた、授業時間の確保、学習内容を理解するための授業時間が確保されたと捉えるでしょうけれども、現状の土曜授業は、あくまでも夏休み短縮をやめてその時数分をどうするかということで出てきたものなので、これはまたいずれ土曜授業のあり方みたいなことも出てくるのかもしれませんけれども、土曜授業をやることによって１週間の時間割に何か変化が見られるというところまで出て初めて小学校の場合、中学校の場合には部活とかいろいろなことがあって当てはまらない部分が多いんでしょうけれども、そうなって初めて土曜授業のあり方がプラスの方につながっていくということでも寄与されるのか、そんなふうに思います。

【委員長】　まだそこまで十分に検討がされてないということですか。

【委員】　ただ単に授業時数ということであれば、夏休みの分は各月に割り振られたというだけで。

【委員長】　その中身自体の経験をしながら改善されていくところまでは至ってない。実際に先生方、どうですか。

【委員】　本校では、今年度から２年生が、昨年度までは週１日６時間授業というのがあったのですけれども、時数が確保できて、区の方ではやってましたけれども、もう一度改めて見直し、今年度は時数を時間を減らしても大丈夫だろうということで週５日間全部５時間授業で２年生を、６時間じゃ少ないのですけれども、意味があったのかな。

【委員長】　ちなみにちょっと伺いたいのですけれども、その２年生は、例えば６時間

の日もあるというふうに、専科の授業というのは多少あるんですか。

【委員】　　専科の授業は、音楽と図工があります。

【委員長】　　両方ともあるのですね。

【委員】　　はい。

【委員長】　　はい、分かりました。他の委員の方はどうですか。お願いします。

【委員】　　先ほど校長先生のほうからお話があったように、夏休み分、教務としての、夏休み分を土曜日にもってきただけという感覚の方が強いです。ただ、区の方針として、土曜日も授業をすることにより、放課後、午後の時間に余裕をもたせるとか何とかそういうことがあったので、うちの場合は、土曜日に４時間組むのは正直きついのですけれども、４時間何とか組んでます。４時間確保して、その分、その週の水曜日の５時間授業分をカットする。だから給食が終わってからちょっとでも残したければ残せるし、会議を多目にとらなければいけないときにはすぐに会議を始められるように時間帯の中では努めました。多少は工夫をしたんですけれども、それだけでは時間に余裕ができたとは正直先生たちは感じられてない。週２８コマでとるか２７コマでとるか、もっと減らすかとか、そういうことをきちっとやっていかない限り時間に余裕というのは感じられない。それをするためには、今の土曜授業プラスもう１週土曜を入れなければいけないのか、プラス夏休み短縮をしなきゃいけないのか、その辺をしない限り週時程を削るのはちょっと難しい。そこまでして週１時間削るのと、さあどっちをとるのという感じになったらば、今の形のほうがいいと皆さん感じている、教員、現場ではそうじゃないというのはここで感じます。

【委員長】　　中学校の委員の方はいかがですか。

【委員】　　結局やはり時数の確保のためにということで、今の学習指導要領であれば週２９時間で土曜日をやらないだけですね、回さなきゃいけないところを、練馬区としては放課後の時間、生徒会活動であるとか専門委員会であるとかの確保をするためには、２８時間にしないと二つ空かないということでやっていくと、どうしても夏休みを短縮するか土曜日を短縮するか、選択になる。他区の例を見ても両方やっているところもある。でも土曜日をやることで、やはり保護者が公開授業をやったときに、平日やるとやはり１人だけ来て教室に入りづらいという部分もあるのが、土曜日にやることでかなり多くの保護者の方が来てだいただけることで、公開授業も少し活発になったという利点があったと思ってます。時数の確保をやることで保護者の協力も得られたと感じております。

【委員】　　違う観点からですけれども。

【委員長】　　はい、どうぞ。

【委員】　　練馬区の中学校は、臨海学校が夏休みにあって、最終日だと一番最後に帰ってくるのが８月の１４日から１５日で帰ってくる。それで８月の２５日から１学期の後半が始まるとなると、ほとんど夏休みは教員はなく、その前に休めばいいと言うと、水泳指導があってほとんど取れないということもあって、うちの教員は、できたら土曜日授業をやって夏休みは９月１日からの方がいい、疲れ具合にもそっちのほうがいい。観点は違いますけれども。

【委員長】　　いえいえ、ありがとうございます。

　ＰＴＡの皆さん、いかがでしょう。

【委員】　　この１３、１４、１５ページの結果を見ますと、非常に学校側と保護者側が違うかな、非常にこれもこうなのかなと思いました。かといって１６ページの今後土曜授業を実施した方がよいかという設問に対しては、先ほど先生方からお話があったように、夏季休業とこの土曜日授業がリンクしていますので、なかなか土曜日授業やめるのだったら夏休みないよみたいな質問なので、これは答えづらい質問だと思う。この質問からいうと、ほとんどの学校側の皆さんも、保護者も当然なんですが、継続した方がいいという回答だということから考えますと､これは継続だろうなというのが我々の思いでございます。

　ただ、これはちょっと本委員会の趣旨とはちょっと違うかもしれませんが、我々小Ｐ連としまして、土曜授業の、要するに子供たちの安全確保に向けたスクールゾーン化、これを昨年度も教育委員会のほうにお話をしておりますが、やはりこの結果を見ていくと今後も継続するということを踏まえて考えれば、やはりそこの子供たちの安全確保という観点を検討されたほうがいいと思いました。

　以上です。

【委員長】　　ありがとうございました。

【委員】　　ちょっとすごく個人的なお話になると思いまして考えたのですけれども、たまたま私は子供が、小学校にお世話になっております。土曜授業が始まりまして、何かすごくいい時間を確保できているなということをちょっと感じたことがありまして、それはなぜかといいますと、小学校はいろいろ独自の行事が幾つかあるんですね、校内音楽会とか、あとお餅つきとかいろいろあるのですが、そういったものをすべて土曜授業の日に行っておりまして、その分平日の５、６時間目に今までやっていたそういった行事が今土曜日にやれているので、平日の授業数をきちんと確保し、しかも子供たちは、普通そういう

日に５、６時間目、例えば今日行事があると思っていたら、その１時間目か２時間目の授業って結構そわそわしてたそうなんですね。ですが、それがもう土曜日に全部集約されてますので、５、６時間目も普通の授業であれば、そういったそわそわせずきちっと集中して授業を受けられていることに効果があったような気がしますというお話を校長の方からもいただきまして、それは確かに保護者としましてもすごく実感しているところで、うまく土曜日を使っていらっしゃるなというのを感じております。

あと、先生方の勤務時間の関係もあるそうなので、きっちりもう３時間授業というのは決まってますので、うちはもう必ず土曜日は３時間授業でやっていただいて、それはまたごくごく少数意見で申しわけないのですが、うちの子供たちは外のスポーツクラブに入っておりまして、どうしても土・日練習しかできないんです。また硬式のボールを使ってますので普通の公園ではまずできなくて、学校の校庭でもできなくて河川敷でやっているのですが、それがどうしても土・日練習で、どうしても土曜日に授業がありますと昼１時からの練習ということになるのですが、４時間授業ですとどうしてもその日には間に合わなくて、遅れて行くことになってしまいます。遅れることは別にいいのですけれども、翌日が大会だったりする場合がありますので、そうなると子供はちょっと練習不足で大会突入みたいな感じだと負の連鎖というかそういうことがありまして、本当にきっちり３時間で終わらせてもらえることによって午後しっかり練習ができるので、それもちょっと一個人としてはありがたいと思っております。

やっぱり授業数確保の仕方は学校によってそれぞれ違うと思うのですけれども、うちの学校みたいに工夫すれば保護者も結構納得すると思いますし、わざわざその、夏休みは先生方も研修とかで忙しいということを校長先生もおっしゃっていますし、そういうことを考えますと夏休みはやっぱりきちんと夏休みで、暑い中、授業をするよりかはきちっと自宅で休んで、普通の９月からまたしっかり気持ちを切りかえてできればいいという思いがしますので、私個人としては、今の現状ですごく大賛成でいいと思っております。

以上です。

【委員長】　　ありがとうございました。

【委員】　　中学校です。１３ページを見ると、やっぱり保護者と教員との考え方が違っている。土曜日、子供たちは授業に、学校に行って授業を受けているから、多分学習内容、勉強をしているのだから理解しているだろうと考えてこのような結果なのだと思うんですが、先生方としては、土曜日というともう子供たちは結構疲れ切っているような状況だと

思う、月曜日から金曜日まであって、そして土曜日。午前中だけではありますけれども、午前中だけ授業であとは遊べるよみたいな、そのぐらいの気持ちで多分学校に行ってる、浮ついている部分もあるのであろうとは思うのですが、それについて、例えば週２９時間って絶対決まっていらっしゃるのですか。先生方の休みとかそういった部分も考えて、土曜日というものを１日授業というのは無理なんですか。そういった感じは無理なんですか。全体、１か月で時間を決めて、１年間あるじゃないですか、その中で土曜日で１日授業、土曜日の授業で時間を確保ということはどうなんですか。どっちにしても子供たちが学校に行ってしまうのであれば、１日学校に行ってしっかり勉強をして帰ってくるというのも考えられるのではないかと感じるのですが。

【委員長】　　その辺、事務局、どうですか。

【委員】　　１日授業が無理かというと別に無理ということではないのですが、今のところは午前中でやっているという状況があります。

【委員】　　例えば、先生たちが子供たちと触れ合う時間というと、やっぱり給食を食べた後にまた授業があって、そういった部分でゆとりができるように思います。お腹すいてそのまんま上がって帰るだけじゃないですか、土曜日って。そういうふうにも感じとれます。

　あと、別のことなんですが、私たち保護者、先ほど先生方が言われていました平日になかなか教室に入れないというところで、土曜日に授業をやってますからどうぞ見に来てくださいと言われております。土曜日に仕事とかお休みの保護者も多いので、土曜日に授業を見られるのはとてもいいことだと思っております。

　以上です。

【委員長】　　ありがとうございます。

　何かありますか。

【委員】　　まず、土曜授業があることは、今こういう社会情勢ですし、男女とも働いている方々は断然多いので、やっぱり父親も育休をとる時代ですから、教育にとても関心がある方が多くて、やっぱりそういうところで授業参観や行事を見たいという気持ちがすごくあるんですね。入学式、卒業式が平日であること自体もそういう方たちにとってはとても大変で、そのため休みをとるとか、遅刻していくとか、でもやはり子供の姿を見たいという気持ちで、入学式、卒業式を土曜日にしてほしいぐらいなので、やっぱりこういうふうに土曜授業でそうやって子供たちの姿を、学校の対応をなまで見れる機会があるという

のはすごくかけがえのないものだと思います。

　また、夏休みの休暇については、全国レベルのスポーツやダンスや音楽の合宿というのもございまして、そういうのは大体お盆を外して２０日ぐらいから始まったり、ちょっと遅目に宿や交通機関が安いところに行われるのですね。そういう場合、２５、２６日あたりはかかっていることが多くて、そうした結果、そういうのに参加したくても練馬区の場合は参加できないというようなこともございますので、全国的には３１日まで夏休みだと思ってそれを企画している団体もとても多いので、やはり夏休みはできましたら３１日まで夏休みにしていただいたほうがそういうチャンスが増えるのでいいと思います。

【委員長】　　ありがとうございました。

　時間が来たのですが、あとご発言されたい方、今一人ありますけれども、他の方はいらっしゃいますか。よろしいですか。では、最後にしたいと思います。どうぞ。

【委員】　　この質問の意味が十分理解されていないのでこういう結果になったのかなと私は思ったのですが、授業時数の確保になっていると思わない教員が多いという、なぜなんだろう。これは不思議だなと思っているんです。というのは、実際この土曜授業をやるに当たっては、先ほどもおっしゃっていましたけれども、確かに夏休みの短縮がなくってこれになってきたけれども、かつてインフルエンザが非常に流行したときに授業時数がかなり減ってしまって、各学校から時数を何とか確保するための手だてとして土曜授業をやってもらえないかという話が結構あったんですね。それもやはりこの土曜授業を実施するに当たって意見を聞くと出てきてて、学校現場って授業時数を確保するのにかなりぎりぎりでやっている部分が多いんだというのがそのとき実態として上がってきたわけです。にもかかわらず教職員は授業時数の確保になってないと思われている、これどういう理解でこれを答えたのかなと。これはちょっと私も不思議だなと。私はそのゆとり云々のところはなかなか難しいけれど、授業時数を確保するために土曜授業は必要だろうって言われたときに、果たしてどういう答えを出してくるのかな。ほんとうに今回この土曜授業を実施するに当たって８回程度、ぐらいだったらやったほうがいいのではないかという意見でここまできたはずなのになぜこういう結果になったのだろう。むしろそちらの方が不思議で仕方がない。そういう意見です。

【委員長】　　ありがとうございました。

　あと、どうですか。もう時間になったんですけれども、どうしてもという方がもしいらっしゃれば。よろしゅうございますか。

それでは、大変恐縮ですけれども、予定した時間が迫ってまいりましたので、一応ここで議事のほうは終了させていただきたいと思います。

先ほど申し上げましたように、第３回目が、今度はこの今日の皆さんのご意見を踏まえてさらにその方向性を協議するというような形になると思いますので、よろしくお願いしたいと思います。

それでは、今日委員の皆様から意見をいただいてまいりましたけれども、次回もまた引き続き積極的にご発言いただくことをお願いして事務局のほうにバトンタッチしたいと思います。よろしくお願いします。

【事務局】　　長時間にわたり協議を進めていただきありがとうございました。

事務局の方から事務連絡を２点確認させていただきます。

まず、１点目でございます。お手元の資料の教育課程検証委員会スケジュール、資料６でございますが、こちらの方をお願いします。最後の資料でございます。次回以降、いろいろ委員長からもおっしゃっていただきましたが、次回は１０月２１日ということになっています。また、最後は１２月９日、第４回として協議のまとめというような形で答申の素案をつくっていくような方向で考えておりますので、よろしくお願いしたいと思っております。それで、次回の開催通知でございますが、机上に配付をさせていただいております。後日、先生方におかれましては、校長先生にお渡ししていただくようよろしくお願いいたします。

２点目でございます。意識調査の結果の公開につきましては、次回の開催前に可能な限りご報告したいというふうに考えております。これも全てとなりますと相当な分量になる予定でございますので、こちらにつきましては、事務局のほうで精査をさせていただいて、どのような形でお送りするかということも含めて事前にお送りするということでご了承いただければと思います。事前にお目通しをいただいて、委員会当日にお持ちいただきますようにお願いします。

以上でございます。

【委員長】　　今のことで何かご質問は、よろしいですか。

それでは、これで第２回の委員会を終了させていただきます。どうもご苦労さまでした。

―― 了 ――